

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	じゃんぐる		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		～ 2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育と集団療育を行っているが、基本的に必ずスタッフの人数以上に児童を療育することはなく、丁寧に個々を見ながら集団療育に展開できるようにしている。	スタッフが関わりながらじっくりと取り組むことで「やってみたらできた。」という自己肯定感や達成感しっかりを味わいながら新しいことに対する取り組みに積極的に認知・行動療法に基づき、療育を行うようにしている。	1つの活動を繰り返し行って行く中で、お子さんが自分一人で行う工程を徐々に増やしていき、同じ活動でも発展させていくなど変化をつけ、少し難しいことにも挑戦してみようという気持ちを持てるようにしている。
2	相談しやすい環境づくりと子供たちにも自己表現や主体的な行動をとりやすい環境づくりを構築している。個々の主体性と積極性、認められる環境の中で自我の保護と強化をしていく努力をしている。	様々な立場のスタッフから意見を聞くことで1つの事例についていろんな側面から捉えることができる。個々の主体性に重きを置き、やってみようという気持ちをより引き出すように声かけや活動を組み立てている。	他のスタッフも一緒に関わり、それぞれの関わり方を参考にしたり、その事について振り返りをおこなうことでよりよい支援ができるようにしている。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別と集団療育の中でも個別でスタッフが療育をするため、じっくりと寄り添いながら関わる事ができる反面、一斉指示が入らない、他とトラブルになるなど集団の中での困り感がなかなか表出しにくいところ。	対大人との関わりが主になるため、お子さんの心情を読み取ったり合わせたりできることや、他とトラブルになる前に手立てをするため普段の様子を捉えにくいこともあるが、特性を把握するように必ず活動後にケース会議をしながらカルテを記入している。	個別の関わりだけでなく、同じ時間帯のお子さん同士がもう少し関わられるような場面を設け、子ども同士のやりとりの中で起こりうる事について、スタッフが仲介しながらもそれぞれが相手を思っどうすればよいかを考えられるような環境を整えることが大事。
2			
3			